

母親・広報委員会の取組

(1) 活動計画

① 研究テーマ

ア 全道統一スローガン

「今 ころろ輝いて 親として 人として」

- a 子育てに奮闘する母親の目指すべき姿として母親委員会発足時から掲げている。
- b 「ころろ輝く親(人)」とは親として、人として生き生きと輝いて充実した生活を送ることを子育てに反映しようというおさえである。
 - ・自分が生きてきた姿を子どもに誇りを持って見せることができる親でありたい。
 - ・失敗や成功、悩みや悲しみ、苦勞を乗り越えてきた過程を、人生の先輩として語るができる親でありたい。

イ 今年度の研究テーマ

「豊かな心をもった子どもを育てる母親のあり方」

- a 全道統一スローガンの趣旨を受けて、母親の立場に立ち、親が願う子ども像を標榜しながら、よりよい子育てのために育児に責任をもつ母親としての心構えやあり方を追求するために設定したテーマである。
- b 「豊かな心」は「生きる力」を育む中核をなすものである。「豊かな心」をもつ子どもを育てる母親とは、
 - ・誇りをもって子育てをする。
 - ・親自身が喜びを感じながら生きている。(輝いている)



② 研究の視点

今日、少子高齢化や情報技術の著しい発達など、社会が急激に変化している。都市化や核家族化がさらに進行し、価値観や倫理観、規範意識、家庭教育に関する考え方の多様化など、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化している。この難しい時代をたくましく、そして健やかに生き抜く力を身につけさせるためには、家庭、地域、学校が連携して子どもたちを育てていかなければならない。

「豊かな心」をもち、「生きる力」を身につけた子どもの育成のためには、取り巻く大人の態度や行動が大切である。「親は人生最初の教師であり、教育の原点は家庭にあり」と言われるように、親は子どもの行動や意識の形成に最も大きな影響力を及ぼすものであり、その責任は大きい。特に母親は子どもにとって一番身近で深く関わる存在であることから、人としても親としても、たいへん重要な役割を担っている。また、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、思いやりの心、善悪の判断など「生きる力」の基礎的な資質や能力は家庭教育の中で培われることから、母親と父親の協力関係を築くとともに、地域との関わりをより一層深めながら、新しい時代の子育てに取り組んでいくことが大切である。

そこで、PTA、さらに大人の立場から、子どもたちを取り巻く環境をしっかりと見取り、課題を把握し、解決に向けた取り組みを推進していく。

さらに、今後、母親として子育てに関する情報の収集・発信をし、交流を積極的に図ることが大切であることから、道P連のHPを使い情報を継続的に発信提供する活動を通して、地区並びに単位PTAへの話題提供の発信源として、情報交流の充実を図る。

また、ブロック各地での活動の様子等を調査し、タイムリーにホームページ上に掲載することにより情報の共有化や更なる話題の輪を広げる活動等実践の交流を図る。地区P連事務局と連携を密にし、活動が見える、わかるという実践を目指していく。

本委員会では、母親が企画・運営して、家庭・地域・学校の連携を取りながら、より主体的に子

育てに関わっていくことができるような活動を推進していく。

(2) 研究の内容

① 母親委員会の活性化と組織の充実のあり方

- ア 各地区母親委員会を組織化し、活性化させるための地区母親研修会はどうあればよいか。
- イ 指導力を高め、行動する母親委員会の日常的な活動はどうあればよいか。
- ウ 自ら学び、行動する母親としての研修はどうあればよいか。
- エ 行動する母親を支える子育て支援の活動はどうあればよいか。
- オ それぞれの実態に応じたスムーズな引き継ぎの在り方はどうあればよいか。
- カ 自治体、教育委員会等関係機関や、学校、地域との連携はどうあればよいか。

② 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

- ア 家庭の教育力を高めるためにはどうあればよいか。
- イ 家庭における食生活や食の安全はどうあればよいか。
- ウ 家庭と学校、家庭と地域社会の連携はどうあればよいか。

③ 母親委員会発の話題提供源としての広報活動～「生きる力」を子どもたちへ伝えるための連携・発信をめざして～

- ア 道P連のHPを活用した継続的な情報発信の推進
- イ ブロック・各地区・単位PTAの活動状況内容の収集と話題提供
- ウ 情報の共有化

(3) 今年度の取り組み

- ア 各地区における活動及び研究の推進
- イ 道P連母親・広報委員会の活動
 - a 本年度の方向性の確認
 - b 地区母親委員会の具体的な活動・実践状況についての情報交流
 - c 各地区における引継方法等についての情報交流

- d 道P連ホームページへの投稿体験
- e 地区母親研修会報告書及び「母親・広報委員会」研究推進報告書の集約・研究内容の交流
- f 今年度のまとめと次年度の方向性についての話し合い

(4) 成果と課題

① 母親委員会の活性化と組織の充実のあり方 〈成果〉

ア できるだけ連携を意識しながら、情報の共有が重要である。単P・市町村Pの交流も深め、母親同士の口コミで輪を広げ、講演会や研修会へ参加したり、北海道 PTA 連合会のホームページで各管内の活動の様子を閲覧したり、「母親のつぶやき」を参考や活用することも考えられる。

イ 実施に向けて会議を重ねて、様々な情報・意見交換を行い、連合 PTA 事務局と情報を共有しながら母親研修委員が率先して活発に活動を行っている地区もある。各学校の状況等を理解しながら運営に当たることができるとスムーズに良い雰囲気の中で取り組んでいる。また、ブロック報告会に母親委員も参加してもらい、交流を深めた地区もある。

ウ ここ数年の傾向として、近年の学校数・会員数の減少から、地区研究大会と母親研修会を同日に開催し、午前と午後に分け、分科会を同時進行するなどの地区が増えてきている。その際、開・閉会式の簡略化に努め、母親の手で当日の提言や司会、記録、運営委



員などを担当するなどしている。

エ 参加者に興味を持ってもらえるように、体験型の研修会を実施（ご当地グルメ・フラダンス等）したり、パネルディスカッションで、気軽に参加できるように配慮や工夫が見られた。また、開始時刻を負担の無いように設定したり、託児所を開設するなどの工夫も見られ、父親の参加が増えた地区もあった。

オ 年度初めに各ブロックから役員を選出し、新旧役員一堂に会して引継を行う地区もある。PTA連合会の総会場で引継を行っている地区もある。また、各単Pの女性役員が母親委員になっていることでスムーズに引き継がれている地区もある。

カ 事務局中心に引継を行っている地区はまだ多いが、母親委員同士で引継が行えるように検討している地区も見られている。

キ 輪番制で交流のない方に引き継ぐ場合でも、次の母親委員の方をサポートできるコミュニケーションづくりを大切にしている。また、情報を共有するために会話を大切にしており、多忙な中なので、スカイプやライン会議も利用できるのではないかと提案された地区もある。

ク 引継の内容としては、開催文書や例年の資料など必要な文書等を次に引き継いだり、当該年度の取り組み内容を時系列で整理し、資料や記録写真のCD化や研修会当日の様子の映像をDVD化するなど、データ化して引き継いだりしている。また、前年度中に講演者を決定して次年度の委員に負担をかけない配慮をしている地区もある。



《課題》

ア 地区の母親委員会は組織されておらず、大会に向け期間限定で組織している地区や、地区研究大会と同実行委員会によって母親研修会を実施している地区もある。また、遠隔地のため、地区担当所在地での会議の開催が困難な地区もある。

イ 楽しいから研修会に出てきてもらえる、という作りも大切である。

ウ 今後は母親研修会の目的や趣旨・位置づけを明確にし、体験参加型の内容の工夫や母親の視点からの内容の工夫のほか、市P連との連携を図り、主体的に企画・推進・運営を行っていくことが大切である。

エ 事務局校とともに母親委員も毎年変わるため、母親委員独自の活動を作っていくのが難しい地区もある。また、引継の全くない地区もある。

オ 参観日や学年レク、学校行事など、学校へ向かう機会を大切にして、交流を密なものとしていくことが大切である。

カ 学校区を一つの単位として小中学校のPTA役員が一堂に会し、各単Pの活動状況等を交流する中で、その地域との連携についても共通理解を図ることが大切である。

②「生きる力」を育てる家庭教育のあり方 《成果》

ア 町内の小中学校の保護者にアンケート調査を実施し、児童・生徒の状況や家庭で大事にしていることを把握。多くの保護者が「あいさつ」「時間を守る」「家族の時間」「思いやりの心」を大切にしている実態が明らかになった。

イ 講演会や親学セミナーを継続していくことにより、家庭教育の大切さや学校・地域と連携して取り組む重要性を確認している。

ウ 「子どもたちの食生活」をテーマに成長期に必要な栄養素、食の現状と課題を考えた際、親の役割として、朝ご飯をしっかり食べさせることが大切である。また、食習慣の呼びかけ「早寝、早起き、朝ご飯」の呼びかけを町として重点的に取り組んでいる地区もある。

オ 地産地消を行うために、食の体験活動な

どを通して、地元の食べ物についてよく知ることが必要。また、栽培体験を通して豊かな心を育むとともに、地域とのつながりを築く上で重要であることが再確認された。

カ 市P連や単Pなどで、講師を招いての食育講演会や毎年恒例の「クッキング分科会」、料理講習会や親子給食試食会などを開催し、各地区で食への関心を高める取組を工夫している。

キ 市P連から「地域の一員であるPTAの果たす役割」として教育環境の整備、学力向上の取組、子どもの安全確保、健全育成を促す取組、地域人材の活用について報告があり、その報告をもとに、各市町村の取組について交流を深めることができた。

ク 読み聞かせに地元テーマパーク登別伊達時代村の役者さんにもボランティアで、参加してもらっている。

ケ 学校と自治会・町内会が連携して、地域の活動への参加や、あいさつ運動、研修会、また、お祭りや行事を協働で実施している。他に、登下校の安全運動や「放課後子ども教室」を実施しているところもある。

コ 給食体験と給食アレルギーへの学習会。インフルエンザ予防への腸と乳酸菌の関係、免疫力を高める食品、腸を活性化させる体操などの講座。北海道食育コーディネーターの講話を連携して開催している地区もある。

《課題》

ア 研修会の参加者からは、大変有意義な内容の研修会であったと好評を得たが、より多くの参加者を募り、地域としての教育力の高まりを図っていく必要がある。

イ 中学校区を一つの単位として小中学校のPTA役員が一堂に会し、各単Pの活動状況や学力、家庭学習、生活の様子などを交流し、自校の取組状況を見直す機会とする。他校の状況や取組姿勢等も交流することができる。しかし、交流していることをどのように一般会員に落とすことができるかが課題である。

③母親・広報委員会発の話題提供源としての広

報活動

～「生きる力」を子どもたちへ伝えるための連携・発信をめざして～

《成果》

ア 道P連のホームページ（以下HP）を活用した継続的な情報発信の推進

a 地区の母親研修会開催にあたりHPの研究のまとめ等を参考に活動計画を立てまた研修の成果を広めるため、母親研修会の報告書などを作成するなど工夫もあった。

b 各单位PTAへの広報紙コンクールの案内、HPの閲覧、投稿の呼びかけを事務局と共に行い情報発信の推進に大きな協力を得た。

c 母親のつぶやきでは母親委員を中心に積極的な投稿があった。

d HPのトップページの写真を各地区から提供いただき、活動の様子を発信した。

e 会報の中でHPについてのお知らせを掲載し取組の推進に努めた。



イ ブロック、各地区、単位PTAの活動状況内容の収集と話題提供

a 単位PTAなどの取り組みを参考にするためHPを利用している。

b 市P連と連携をとりHPに地区大会の写真を掲載するなど工夫している。

c 北海道ブロック研究大会、各地区研究大会などの案内、報告など閲覧し、各地区、単位PTAの活動に役立てている。

ウ 情報の共有化

- a HPの投稿などを定期的に見る他の地区、単位PTAの情報を共有できるように努めている。
- b 地区連合会の母親研修会を準備や運営に携わったPTA学校職員に多くの協力をいただいた。PとTの絆が強まった。(感動の共有)

《課題》

- ア HPの活用と情報発信については、まだ知らず活用に至らない地区もある。
- イ 今後もHPの紹介、投稿や閲覧についての周知も必要。
- ウ HPを多くの会員に活用してもらうための工夫も必要。
- エ 活動状況、話題提供収集に関してはブロック、各地区P連との情報共有も大切。



- イ 各地区の研修会の取り組みを広め、知ることにより、望ましい家庭教育の在り方を追求することができるよう、各地区の研修会等の取り組みを継続して整理し、参考資料として整備する。

③ 母親委員会発の話題提供源としての広報活動

- ア HPを活用してもらうには新しい情報も必要である
- イ 25地区の母親委員が中心となり継続的な情報発信の推進に努める
- ウ HPの周知、閲覧を積極的に呼びかけ、活用促進を図る
- エ ブロック、各地区P連、単位PTAの母親委員は情報収集、話題提供などの活動を通して繋がり確立も重要。
- オ 各地区の情報の把握に努め「活動の紹介」「PTAT」「役員、母親のつぶやき」などへの積極的な投稿を行い情報の共有化を図る。
- カ PTA活動や子育てに多くの会員に活用していただけるツールとして、会員自ら参加・運営するHPとして取組を進めていく。
- キ HPを通し会員の情報共有が更に図られるようにする。

(5) 次年度の方向性

- ① 母親委員会の活性化と組織の充実のあり方
 - ア 地区母親研修会における母親委員の活動を積極的に進めるために、今後も実態を把握し、情報交流を行っていく。
 - イ 全道各25地区の母親委員に、北海道全体にPTA活動が浸透していくよう、道P連の会議への積極的な参加を呼びかけるとともに、ホームページの充実を図り、閲覧の呼びかけ等を行い、組織や活動の活性化を図る。
- ② 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方
 - ア 家庭環境も様々であり、子育てに悩む親は多い。悩みを母親あるいは父親一人で抱えるのではなく、多くの人と情報共有できる場を設定し、意見交流を図っていく。

